

小学2年生の感激

久しぶりにさんかく山（藤枝市助宗）頂上の”おれっちの砦”（ツリーハウス）に行ってきました。参加者は寂しいかな、小学2年生の男の子、たった1人。でも、嬉しかったですね。その子はこの日初めて参加したんですが、ほんとすごく感激してくれました。勿論、私とも初対面だったのですが、当フォーラム事務局から私の車・エスティマに乗り込むや、彼はさんかく山の頂上に着くまでの約15分程ずっとしゃべりっぱなしで、いろんな話をしてくれました。その間2度ハンドフリーの私の携帯に電話が入ると、不思議そうに聞き耳を立てたり、車が山を登り始め、窓下に急斜面がそそり立つと、「ワアー！」と歓声をあげたり。最後の急斜面を一気に車で登り頂上に着き、眼下に広がる藤枝市内を見下ろしながら、再び感激の声。自然に感情が表れる。やはり子どもなんですね。暫く風雨に晒され、クモの巣の張った砦を二人できれいし、一部を修繕。かなづちを持つのは初めてという彼に、砦の登りばしごのくぎ打ちをやって貰いました。任されると、一生懸命やるんですね。でも、力不足でなかなかくぎが入っていかない。おまけに、かなづちがなかなかくぎに命中しない。その姿を見ていた私は思い余って、かなづちは平らな面と丸い面があることを、彼に触らせて教えると、「どうして？」と聞いてくる。「くぎを打つときは平らな面で、最後に丸い面でくぎの頭を埋め込んだよ。」と答えると、「そうかあ、だからさっきは、くぎの頭をうまく打てなかったんだ。」と、また感激。時折腕を振り、肩をほぐしては、やっとのことでくぎを2本打ち込んだ時の彼の顔も、またよかったですね。

そして、その彼のおじいちゃんから、下の写真の手作りの灰皿（でも私、たばこは吸いません）を頂きました。穴の掘りぬきも見事ながら、周りの亀3匹がなんともかわいいです。くるみの実の甲羅に、竹の枝の足、どんぐりの実の頭に目がちゃんと埋め込まれております。その表情がとても豊かです。ありがとうございました。



3年後の7月5日夕方、そのおじいちゃんがお亡くなりました。思えば、彼が前述のおれっちの砦作りに参加した前の年、SBS静岡放送・日本医師会テレビ健康講座「ふれあい健康ネットワーク 不登校への理解と支援」で、当フォーラムが紹介されました番組をご覧になり、当時不登校になっていましたお孫さん（彼のお兄ちゃん）を案じ、当フォーラムの事務所の地名と入り口の映像だけを頼りに（運送業を営むおじいちゃん、一度当事務所に荷物を届けたことがあったようで）、はるばる私を尋ねてきて頂いたのが、初めての出会いでした。私の女房もホントびっくり致しました。そのお気持ちに感動し、私も他県に住むそのお孫さんの不登校解消に向けて、約一年の間取り組ませて頂きました。その間、おじいちゃんにも何度となくお会いし、リハビリを兼ねて作られた、竹や小枝を利用して作られた動物の置物（上記の灰皿もその一つ）をたくさん頂きました。不思議でした。お亡くなりになったその時間に、私は塾に飾られたその置物について、一人の高校生と話してしていたんですね。ご冥福をお祈り致しました。